

新任校長として

～保小中一貫教育を推進する取組を通して～

長生村立長生中学校長 やまざき ふみひこ 山崎 文彦



1 はじめに

千葉県唯一の村である長生村は1村1中である。本校には教諭として7年間、教頭として1年間、そして村教育委員会に3年間勤務し、教員生活の3分の1を過ごしている愛着のある地域である。職員のほとんどを知っていることが強みである反面、新任校長として今までとは違った立場で、どのように職員に接することがよいのか悩んだ。着任した時に職員に向けての言葉は、「いつでも組織として取り組む」、「何かあったら、声に出す『即・報・連・相』」であった。また、7年前から掲げられた学校スローガン「時を守り 場を清め 礼を正す」を職員と生徒が一緒になって実践することを目標として掲げた。目指す生徒像を「やる気」「がまん」「思いやり」の三つの言葉で表現し、生徒や保護者にも分かりやすいようにした。

2 学区の特色

本校は、九十九里浜の南部に位置し、砂浜と青い海、緑の田園風景、温暖多雨の海洋性気候に恵まれ、農業・造園業を中心としながら発展してきた地域にある。

昭和28年、町村合併促進法の施行と同時にモデルケースとして旧八積村・高根村・一松村が合併して長生村が誕生した。

近年は、交通網の整備により、時間的に首都圏に近くなったために宅地造成が進み、人口は約14,000人余りと長生郡内では最多の人口である。人間性豊かな住みよい村を実現す

るために「健康な生活が営まれる田園文化の里長生」を基本姿勢として、「文化のかおり高い村づくり」を目指して積極的に諸政策を展開中である。各地からの転入者があり、保護者の価値観も多様化し、考え方も様々である。地域や村当局も含め、学校教育に寄せる関心や期待は大きく、小中学校を始め村内の教育施設は整備され充実し、活用されている。

平成29年度からは、「保小中一貫教育」に取り組み、施設分離型の保小中一貫教育を推進するために、教育課程の一本化を目指している。また、保小中一貫教育の目標として、「15歳のあるべき生徒像」を掲げ、

- | |
|----------------------|
| 1 社会の変化に対応できる力 |
| 2 社会で役立つ学力 |
| 3 社会で生きていく上で必要な人間性 |
| 4 社会で生きていく上で必要な健康と体力 |

の育成を目指している。

3 本校の具体的な取組

(1)学力向上

平成28年度から3年間、県教育委員会より、「ちばっ子『学力向上』総合プラン」事業に基づいた『学力・学習状況』検証事業』の指定を受けたことをきっかけに、『確かな学力』を身に付けた生徒の育成」を研究主題に据え、実感を伴う「わかる授業」の確立に焦点を当て研究を進めてきた。村から「学習指導支援員3名（数学2名、英語1名）、特別支援教育介助員2名、ALT1名が派遣されている。

着任した昨年度は「学力向上交流会」で、T Tによる授業を中心に授業公開を行った。今年度も基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、受動的な学習態度の改善や思考力・判断力・表現力の育成のため、できる喜びや創る喜びを実感できる「わかる授業」を目指して、授業の改善・工夫を更に推し進めている。



T Tによる授業風景

(2)保小中一貫教育

①保中・小中の交流

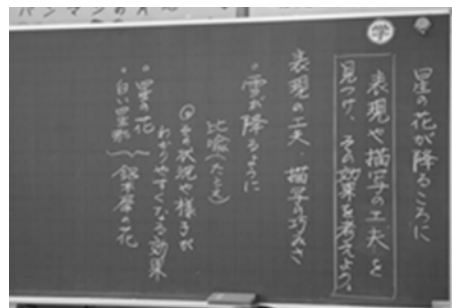
小中や保中で子供同士の交流として、入学前の新生の「部活動体験入部」や「部活動による保育所訪問」を実施している。「部活動体験入部」では、実際に活動を体験することができ、部活動選択の際の参考になっている。

「部活動による保育所訪問」は、文化部での実施となっているが、今後は、夏休みを利用して、運動部による訪問も視野に入れている。また、小中の職員の交流として、夏休みの補習授業や小中相互授業参観等を通して、児童・生徒理解を進めている。

②授業実践

授業では、小中連携ユニバーサルデザインを取り入れたルールに沿った板書を実施している。板書のルールが全教科で統一されることで、学習内容が理解しやすくなり、ノートにもまとめやすくなっている。小学校時からユニバーサルデザインを取り入れた板書のルールに慣れているため、中学校の授業へスムーズに接続できている。また、各教科で保小中一貫教育での「育てたい力」を明確にし、連続性のある年間指導計画を作成することで、中1ギャップの解消、小中の段差なき教育を

進めている。そして、小学校までに培われた資質・能力を基に、本校生徒の実態を踏まえ、「確かな学力」の向上につながる実践に日々取り組んでいる。



板書例

③自己評価カード

自己評価カードを活用した「振り返り」を全教科で毎時間実施している。形式については、教科ごとに工夫されたものとなっているが、自分の言葉で書くことを共通で行っている。生徒は学習した内容、新たな気づき、疑問点、さらに深く学びたいこと等を書くことで振り返り、個々に学習のまとめをする。これにより、教師側も、生徒の学びの実態を毎時間、確認することができ、次の指導へ生かしている。

4 おわりに

校長として2年目を迎え、「これでよかったのか。」と自問自答の日々ではあるが、新任校長研修でいろいろな分野の方々からお話をいただいたことを胸に、自分の進むべき道を模索しながら進んでいこうと思う。卒業式の式辞で「継続は繰り返しとはちがう。同じことを繰り返していても進歩はない。蟻の一步でも前進することが継続である。」という話を生徒たちにした。自分自身もこの言葉を噛み締めながら歩いていこうと思う。生徒・職員に支えられていることを忘れずに。

チームで育む心の故郷 我孫子



県立我孫子特別支援学校教頭 やまなか のぶよし 山中 暢 巖

1 はじめに

県立我孫子特別支援学校は、本校に小学部76名と中学部60名、清新分校に高等部普通科職業コース47名、計183名（令和元年5月1日現在）が在籍する知的障害特別支援学校である。昭和53年4月に開校し、今年度創立42年目を迎える。県北西部に位置し、近くには、利根川と手賀沼があり、緑豊かな自然に囲まれた学校である。県立特別支援学校整備計画により、学校の姿は、次のように変化してきた。

平成22年4月には、県立沼南高柳高等学校内に、1学年の定員16名、3学年合計で48名定員の高等部普通科職業コースを置く県立我孫子特別支援学校清新分校を開設した。

平成26年には、高等部普通科及び専門学科を置く県立湖北特別支援学校が設立されたことに伴い、我孫子特別支援学校の高等部が湖北特別支援学校に移転した。その結果、本校には小学部と中学部を置き、分校には高等部普通科職業コースを置く特別支援学校となって現在に至っている。

2 学校教育目標及び学校経営方針

学校教育目標は、「豊かな心と健やかな体、確かな学力をもった、自立と社会参加できる児童生徒の育成」である。

また、学校経営方針は、表題にも示した「チームで育む心の故郷 我孫子」をスローガンとしており、チーム学校として愛情をもって

子供を育むこと、心の故郷をより良いものへと育むことの2点を目指している。

具体的な方針は、以下4点となる。

(1)児童生徒をかけがえのない存在として大切にし、誠意をもって接するチーム

- ①高い人権意識をもち、児童生徒の思いや願いを大切にし、優しく、丁寧に接する。
- ②一人一人の児童生徒の発達段階・表現方法や個性を的確に捉え、理解する。
- ③児童生徒の、分かること・できること・力と可能性を認め、肯定的に評価する。

(2)一人一人が、明るく元気に過ごすことができるチーム

- ①高い倫理観と使命感をもち、いつでもどこでも誰にでも胸を張れる実践を行う。
- ②働き方改革・業務改善を推進し、自身と家族・チームメートの時間を大切にする。
- ③チームワークを大切にするとともに、安心・安全に過ごせる学校づくりを進める。

(3)主体的・対話的で深い学びとカリキュラムマネジメントを推進するチーム

- ①自己有用感を高め、分かって・できて・伝え合え、喜び合える授業改善を図る。
- ②キャリア教育の視点をもって、児童生徒の個性と役割・生活年齢を尊重する。
- ③指導方法の改善・指導と評価の一体化について研修を進め、専門性を維持・向上する。

(4)保護者・関係機関と協力・連携する、社会に開かれたチーム

- ①保護者と共に、両輪となって児童生徒の指導・支援に当たる。

- ②開かれた学校づくり委員会・PTA・後援会と協働した学校づくりを進める。
- ③地域の特別支援教育の振興に資するように、関係機関との連携をより密にする。

「チーム我孫子」として、人権意識を常に高くもちながら、子供たちに丁寧接することを大切にし、教職員の資質向上や教職員自身の健康管理を含めた環境改善、学習指導要領に基づいたカリキュラムマネジメントや保護者・地域とのよりよい連携を常に意識しながら日々の教育活動を推進している。

3 当校のタスクフォース

上記に挙げた経営方針の(2)働き方改革、(3)カリキュラムマネジメントについて、今年度、1年間を期限としたタスクフォースチームを立ち上げ、有効な方策を検討するべく、動き始めたところである。

チームの構成メンバーは、教頭、主幹教諭、教務主任のほか、教育課程やモラルアップ委員会等のチーフである。

5月には、昨年度までの取組や成果と課題を丁寧に洗い出した。特に、働き方改革では、一人一台PCを活用した職員会議のペーパーレス化を図ったり、会議の回数及び時間の削減を図ったりすることで、個々の教職員の授業準備に当てる時間が確保できるようになってきた。今後は、どのようにスクラップ・アンド・ビルドをすることができるのかチームで改善案を検討し、9月以降、全教職員で実践を進める計画である。

4 学校を支える教頭の役目

当校は教頭が2名配置され、本校に1名、分校に1名が常駐して校務に当たっており、電話やメールでこまめに連絡を取り合うように心がけ、調整を図っている。

私は、昨年度は新任教頭として清新分校に着任し、今年度は本校の教頭として、校長の学校経営方針を受け校務に当たっている。

教職員の管理面では、教職員一人一人の資質向上に努めること、全ての教職員が心身ともに健康でいられるようにすることが教頭としての役目と考え、日々、指導場面や職員室の様子に気配り目配りするよう努めている。

児童生徒との関わり方や保護者対応等に係るよりよい対応については、中堅・ベテラン層の教職員は教頭から指導助言するが、若年層の教職員には、教務主任や学部主事が助言するよう指導し、ミドル層も経験を積むことができるようにしている。

危機管理面では、校内参観を通して、ヒヤリハット事例に挙がりそうな案件についても目を配るようにし、事故の未然防止を心がけている。児童生徒のけが等における保護者への説明では、明確な状況説明と丁寧な対応をするよう指導し、必要に応じて教頭からも説明するようにしている。

働き方改革の面では、出退勤時刻や校務の負担等について注意深く観察し、必要に応じて支援やアドバイスを心がけている。また、タスクフォースでの取組を通して、職員全体が知恵を出し合い、主体的な働き方改革となるようにしている。

5 おわりに

校長の意を体して、学校経営方針を柱として学校を支えていくことが教頭の役目であると考え。

まずは、教職員の力をまとめ、「チーム」として対応できるようにすることが重要であると考えている。私は、これからも、一人一人の教職員に丁寧に関わり、信頼を築くことに心を砕き、「チーム我孫子」の教頭として、励んでいきたい。

繋いでいく、返していく

印西市立滝野中学校教諭 高木 小百合



1 はじめに

平成25年度に本校に赴任し、学級担任を2年、学年主任と学級担任の兼任を3年務めた後、全く予期していなかった教務主任の職を命ぜられた。教務主任の役割とは何か、戸惑いを覚えながら1年を終え、今は、職員一人一人を繋ぎ、職員が気持ちよく動けるようにすることが教務主任の役割だと考えている。

2 新任教務主任研修で得たこと

県総合教育センターでの教務主任研修では、これまでの自分を振り返るとともに、今後の活動のヒントを頂くことができた。

特に、1回目の研修での、「相手の人格は変えられない。しかし、自分自身が変容することで相手に影響を与えることが可能になる。」という講師の言葉には大いに感銘を受けた。

また、仕事の3原則（何をするのか。どのようにするのか。どんな思いでするのか。）を学び、仕事をするには「思い」が必要であるということに共感を覚えた。

先輩教務主任からの、実践を踏まえ本音を交えた講義により、教務主任としてどうあればよいのか、これから何をすればよいのか分かった。当時の私は、理想とする教務主任像とはあまりにもかけ離れている自分に自信を失いかけていたが、何よりも、活力に溢れ生き生きとした先輩の姿に励まされ、勇気付けられた。

3 教務主任として心掛けていること

(1)担任が動きやすくすること

この立場になり改めて感じたことは、担任の仕事は多岐に渡り大変だということである。

そこで、授業週報や変則時程を作成する際、担任が子供とじっくり向き合う時間を確保できるよう工夫している。

(2)学年主任の話をできるだけ聞くこと

学年をまとめながら、計画立案等に苦慮している学年主任との意思の疎通に努めている。月の行事予定や各行事の担当者との関連性を明らかにし、先の見通しを持ちながら教育活動を進めていく上で、この学年主任との関わりは欠かせないと考えている。

(3)話しかけやすい雰囲気をつくること

教務主任となり、教育委員会や外部機関等との関わりに多くの時間をとられるようになった。しかし、どんなに忙しい時でも、職員が気軽に声をかけやすいような雰囲気づくりに努めている。職員の悩みや相談に真摯に対応することは、信頼関係を築く上でも大切なことであると考えている。

(4)生徒の情報を共有すること

音楽科担当という立場上、授業を通じて全校生徒の様子を間近で掴むことができる。そこで得た情報を担任等と共有し、生徒指導に生かしている。

4 おわりに

教務主任になり、今までの私は、前任の教務主任をはじめ、たくさんの方に助けられていたことが分かった。今まで受けた指導や支援に感謝しつつ、これからは、教務主任として、今まで自分が受けたことを職員に返していきたい。それが、学校を動かすことに繋がっていくと思う。

児童の声から考える

鋸南町立鋸南小学校教諭 阿部 るりか



教員としてこの1年間は、子供たちの言葉からたくさん学ぶことがあった。赴任した当初、焦って毎日を過ごす私に子供たちは「何か手伝うことはありますか？」と尋ねてきた。その言葉で、自分一人で解決しようとして、子供たちの力を生かしていない余裕のない自分に気付いた。困ったときは子供と一緒に考えればよいのだと思った。

初任者研修で、授業中は子供の声を大切にすることを学んだ。発表された言葉だけでなく、ノートに書かれた考えも含まれるということだった。その日のうちに学校に戻り、ノートを点検し、子供たちの考えを取り上げることの大切さを確認した。また、授業の中でも、机間指導の際にしっかりと内容を確認しながら、良いところは学級全体に紹介することを実践した。そして、発表の苦手な子供であっても、認める場を作ることを心がけた。すると、授業の雰囲気が変わっただけでなく、学級全体の様子に変化が見られるようになった。子供同士の会話が増えたり、関わり方に不安のあった子供が自ら話しかけたりするなど、少しずつ成果が現れてきた。

私は、初任者研修を通して学んだ多くのことを生かし、子供たちの声に耳を傾け、一人一人の気持ちに寄り添うことのできる教員になれるよう努力していきたい。

未来を築く子供のために

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校教諭 花本 千愛



初任者研修の中で印象に残ったことが二つある。

一つ目は、高等学校体験研修で感じたことで「子供の将来へと繋がる力を伸ばす」ということだ。研修で出会った生徒は、大変生き生きしており、将来の夢や目標を明確に持たせていることが、そういった生徒の表情に繋がっていると感じた。それまでの私は、子供たちに接するときに、その場しのぎで対応していた。しかし、この研修をきっかけに、「子供たちの将来の姿」をイメージして、今どんな力を身に付けさせようとしているのか考えるようになった。例えば、なぜ部活動で挨拶や返事に重点をおくのか。それは「周囲への感謝の気持ちを素直に表現できる力」を身に付けさせたいからだ。そのように認識できたことで、自分自身の指導に自信が持てるようになった。

二つ目は、「信頼関係は自分から築く」という言葉だ。話しかけられるのを待つのではなく、自分から関わることが信頼関係を築くことに繋がると学んだ。実際に自分から声をかけてみると、生徒との心の距離が縮まり、さらにそれを継続することで生徒が自分に話しかけてくるようになった。

この経験を、今後の自分に生かしていきたい。「未来を築く子供たちの3年間を預かっている」ということを常に胸に抱き、生徒に接していこう。

自分との関わりで考える道徳科の授業

～道徳日記の活用を通して～

館山市立北条小学校教諭 黒川 久美



1 はじめに

道徳科の授業は、道徳教育の要であることから、「心情理解のみの授業」や「わかりきったことを言わせる授業」を見直すとともに、「考え・議論する道徳」への転換を図ることが求められている。

これまでの授業では、道徳的価値の理解において、児童は「そうすることが望ましい」という点は理解しているが、自分自身の経験と照らし合わせて考え、「なぜそうすることがよいのか」等、道徳的価値について考えることが不十分であった。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編には、「道徳的諸価値に関わる様々な課題について議論を行い自分との関わりで考察できるような工夫をする」とある。このことから、道徳科の授業において、自分との関わりで考える手立てを工夫していくことが、思考を深めることにつながると考えた。

2 目指す児童の姿

教材等を自分との関わりで考え、自らを振り返ったり他者の考えと比べたりしながら自分も周りも納得できる考えを導き出そうとする姿を目指す。そうすることで、よりよい生き方を求める児童の育成を図ることができる。と考える。「自分との関わりで考える」とは、以下の5点とした。

- (1)自分の経験と照らし合わせて考えること
- (2)自分だったらどうするかを考えること

(3)自分と教材の登場人物の行為や心情を比較して考えること

(4)道徳的価値は大切であると理解していても、実現することができない自分の弱さを考えること

(5)今までの自分とこれからの自分の生き方を考えること

3 自分との関わりで考えさせる手立て

(1)導入で、考えてみたくなる発問をする

①児童のこれまでの考えを揺さぶる発問

(ア)教材名：まどガラスと魚（3年生）

内容項目：A 正直、誠実

「正直に言うことは良いことと言っていましたね。だから『あなたの靴下、穴があいているね』と正直に言うことも良いことですね？」

(イ)教材名：図書館はだれのもの（5年生）

内容項目：C 規則の尊重

『きまり』を守ることは大切なのですね。そして、『きまり』は、みんなが気持ちよく過ごすためのものなのですね。だったら、『きまり』は、たくさんあった方が良いでしょうね？」

この問いに対し「あると窮屈」という意見が出たら、『きまり』があったら苦しいから、『きまり』は、ない方が良いでしょうね？」と再び聞いてみる。

このように、揺さぶりをかけることで、今まで考えていたことをもう一度見直すきっかけをつくり、本時のめあてにつなげていく。

②主題に関する発問

(ア)教材名：銀のしょく台（５年生）

内容項目：B 寛容

「広い心とは？」と問いかけることで、自分には「広い心」があるかを見つめ直させ、自分との関わりで考えさせる。また、「自分とは違う考え方や意見をもった人とどのように付き合っていけばよいか」というめあてにつなげていく。そして、終末に、導入時の発問をもう一度することで再度考えさせ、価値理解を深めていく。

(2)自分の考えを整理できるように工夫する

①ワークシートの工夫

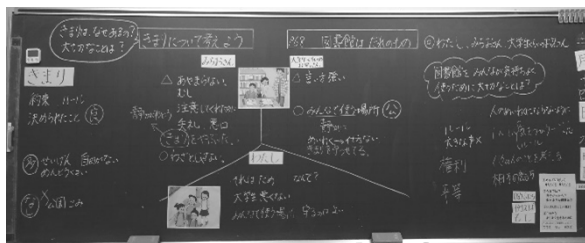
フリースペースを作り、自分の考えを文章だけでなく、図や簡単な絵、短い言葉でまとめられるようにする。

②「思考ツール」の活用

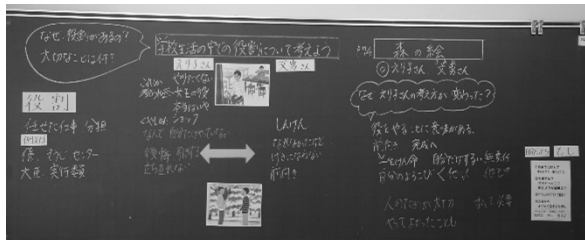
「思考ツール」として、グラフや関係図などを紹介し、特に、登場人物の行為やその心情を書き込むように助言する。

(3)板書を工夫する

登場人物のそれぞれの行為や心情を考えることができるような板書を工夫する。登場人物の行為や考え方の違いを比較したり、人物の気持ちの変化を捉えたりすることができるように板書する。そうすることで、多面的・多角的に考えることができるようにしていく。



教材名：図書館はだれのもの（５年生）



教材名：森の絵（５年生）

(4)終末で、視点をはっきりさせて、道德日記を書き、自分との関わりで振り返らせる

道德日記には、次の四つの視点で書かせる。

- ①めあてに対して考えたことや学んだこと。
- ②今までの自分だったら?似たような経験は?
- ③仲間の〇〇という意見で気付いたこと。
- ④これからよりよく生きるためにどうありたいか。

これら四つの視点は掲示物にし、毎回授業の最初に黒板に掲示する。そして、道德日記を書く時間を２回に分け、１回目は、授業の終末で学んだことを書かせる。途中、書いたことを発表し合う時間を設け、他者の考えに触れさせ、学びを深める。その後、２回目の道德日記を書く時間を取り、仲間の意見を聞いて考えたことを付け足していき、自己の生き方についての理解を深めていく。

ワークシートには自己評価（５段階）の欄も設ける。項目は、以下のとおりである。

- ①今日の学習では主体的に考えることができた。
- ②話し合いをして、新しく気付いたことがあった。
- ③これから、大切にしたいことが分かった。
- ④自分と比べたり今までの自分を振り返ったりして考えることができた。
- ⑤よりよく生きるために、〇〇したいと思うことがあった。

毎時間積み重ねることで児童の変容を見る。授業後には、自分との関わりで書かれている道德日記を配布し、全体で交流させたり掲示したりして、仲間の考えに触れさせることで、考えの広がり支援する。

4 おわりに

今回は、児童が主体的に自分との関わりで考えられる授業にするための手立てを中心に考えてきた。今後は、ねらいを引き出すような発問、引き込まれるような話し合いをするための場の工夫等についても深めていきたい。

生徒が自己の変容に気付くことができる指導の工夫

～振り返りシートを使った自己の振り返り～

県立長生高等学校教諭

えんどう じゅんいち
遠藤 潤一



1 本校英語科の取組

生徒に卒業時まで身に付けさせたい力として次の三つを掲げ、学年ごとに生徒の発達段階に応じた指導を行うよう心がけている。

- (1)英語を通じて、場面や状況、背景、相手の表情や反応などを踏まえて、話し手や書き手の伝えたいことを的確に理解するとともに、自分が伝えたいことを適切に伝えることができる力。
- (2)グローバル社会で主体的に行動できる積極性や異文化を理解しようとする態度。
- (3)自らリサーチしたことを論理的にまとめて発表したり、発表後の質疑応答や討論をしたりできる力。

さらに、本校英語科の指導における大きな特徴として、各学年でインタビューテスト、プレゼンテーション、ディベートなどのパフォーマンステストを計画・実施し、評価に活用している。また、学年共通のワークシートを活用するなど、「優れた1人の教師の10歩より10人の教師の1歩が大切」という考えのもと、チーム英語科として授業に臨んでいる。

2 研究主題について

英語科では、生徒が、授業の進行に伴い、自己の変容に気付く、意欲を持って学習するためにはどうしたらよいか、一つの課題となっていた。そのような折、県総合教育センターが開発した「振り返りシート」の存在を知った。これを用いることで、生徒が自己の

変容に気付くことができるのではないかと考え、本校の英語学習に合うような形にアレンジして、実践することとした。

3 研究の目標

振り返りシートを活用することで、生徒が授業の中で単元の主題について継続的に考え、振り返り、自己の変容に気付くことができるようにする。

4 研究の実際

(1)単元の指導計画

単元名 Lesson8 Emotions Gone Wild
(全体13時間)

- ・Warm-up・Introduction・単元前後の振り返りシート左側への記入 (1時間)
- ・Part1内容理解・音読練習 (2時間)
- ・Part2内容理解・音読練習 (2時間)
- ・Part3内容理解・音読練習 (2時間)
- ・Part4内容理解・音読練習 (2時間)
- ・Communication Activity・単元前後の振り返りシート右側と変容の記入 (2時間)
- ・Grammar&Expressions (2時間)

※毎時間、授業の終盤に振り返りシート記入の時間を設け、生徒に振り返りをさせる。

(2)振り返りシートについて

授業では、①単元の始めと終わりに使用する「単元前後の振り返りシート」、②単元を通して毎時間使用する「各時間の振り返りシート」の2種類の振り返りシートを使用した。

①単元前後の振り返りシート

単元の第1時に、単元の主題についての問いに対して自分の考えを記述させた。これにより、主題を意識しながら学習する姿が見られるようになった。単元の最後には第1時と同じ問いに再び自分の考えを記述させた。単元の始めと終わりに、同じ問いに対する自分の考えを書かせることで、授業を通して自己が変容したことに気付くことができるようになった。なお、振り返りの際は、自身が記述した内容や表現力の変化についても記述させ、自己の変容について考えを深めさせた。

Lesson 8 Emotions Gone Wild

Option Writing

Write your opinion before you start the new lesson.

Do you agree with the statement that animals have emotions? Write your opinion.

I agree with this statement. I have two reasons. First, I think that the behavior of elephants, monkeys and bears shows they have emotions. For example, they cry when they are sad, angry and happy. Second, when we play with dogs or cats, they wag their tails and run. We see their behaviors. We are also happy. It is because we can share our emotions. If animals do not have emotions, we can not do that. For these reasons, I think animals have emotions like human.

Write your opinion after you finish learning the lesson.

Do you agree with the statement that animals have emotions? You may refer to your OPP sheet.

I agree with this statement. I have two reasons. First, I think that the behavior of elephants, monkeys and bears shows they have emotions. For example, they cry when they are sad, angry and happy. Second, when we play with dogs or cats, they wag their tails and run. We see their behaviors. We are also happy. It is because we can share our emotions. If animals do not have emotions, we can not do that. For these reasons, I think animals have emotions like human.

Compare your writing before and after the lesson. Write what you think of the difference.

How different your writing is how your thoughts have changed.

I haven't thought animals and human can share the emotions. But, I learned we can share our emotions with animals easily. It's important role.

Evaluation

Reason: Not required. 1 point / Emotionally required. 2 points / Fact. 1 point / Not required at all. 3 points

4/10

単元前後の振り返りシート

②各時間の振り返りシート

毎時間、授業の終わりに要点や重要語句を記入させた。これにより、生徒はその時間の自己の学習状況を認識できるようになった。また、単元の最後の振り返りを意識して、毎時間、どんな表現や語彙を使えばよいか考えながら授業に臨む姿も見られるようになった。

OPP Sheet for Lesson 8 <Emotions Gone Wild>

* OPP stands for One Page Portfolio. The objective of this sheet is to reflect on each lesson and examine the change in your thoughts.

* Write the date of today's lesson and think of the best title of the lesson.

6.4.10 (The purpose of Machine Poems)

Write what you think is the most impressive or important about today's lesson.

① I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

② I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

③ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

④ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑤ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑥ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑦ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑧ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑨ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑩ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑪ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑫ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑬ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑭ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑮ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑯ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑰ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑱ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑲ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

⑳ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉑ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉒ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉓ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉔ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉕ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉖ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉗ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉘ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉙ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉚ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉛ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉜ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉝ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉞ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㉟ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊱ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊲ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊳ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊴ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊵ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊶ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊷ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊸ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊹ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊺ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊻ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊼ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊽ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊾ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

㊿ I have learned that the text of these poems is to be taken as a map of the human mind.

各時間の振り返りシート

(3)研究を終えて

以下に授業実践後にコミュニケーション英語Ⅱ2クラス・計68人に対して実施したアンケートの回答結果を示す。

アンケート結果

質問内容	アンケート回答結果
01. 振り返りシートで力がつくと感じますか。	はい・・・55人(約81%) いいえ・・・13人(約19%)
02. 振り返りシートを通して、どのような力が身に付きましたか。	<単元前後の振り返りシート> ○授業で学んだ考えや表現を使う力。 ○自身の英文を見直し、考え直す力。 ○使える表現に置き換えて書く力。 ○自分の最初の考えとクラスメイトの考えを比較しながら授業を受けること。 ○自身の最初の英文と比較しながらわかりやすく書く力。 <各時間の振り返りシート> ○授業内容を復習する習慣。 ○授業の内容を短い言葉でまとめる力。 ○授業の要点は何かを考えながら授業を受けること。 ○授業を深く理解する力。 ○語彙を定着させることができる。 ○繰り返し見ることができるので学習内容を定着させることができる。
03. 単元前後の振り返りシートで最初に書いた時と最後に書いた時でどのような違いがありましたか。	○教科書の内容が理解できた中で書けるのに加え、書くことが決まっているのでスラスラと書くことができた。 ○まとまった意見を書くことができた。 ○文章を書く量が増えた。 ○固定観念が強かったことに気づいた。 ○意見が変わってなかったとしても、考え方が変わった。 ○具体的な例や理由・根拠を書けるようになった。 ○様々な視点で考えて書けるようになった。 ○テーマを深く考えるようになった。 ○使える表現(単語や文法)の幅が広がった。
04. 振り返りシートの改善点は何ですか。(生徒自身と活動)	<生徒自身について> ○1回目に書くことが難しく、ほとんど書くことができなかった。(単元前後) ○もっと書けるようになりたい。(単元前後) ○毎回同じようなことを書いてしまう。(各時間) ○タイトルをつけられない。(各時間) <活動について> ○書く時間が多くなり、授業の時間が短くなってしまった。(単元前後) ○2回目だけでなく、1回目も添削をしてもらいたい。(単元前後) ○より面白い、身近なテーマだと書きやすい。(単元前後) ○書く内容が具体的に決まっていると良い。(単元前後) ○書くスペースが小さい。(各時間) ○活動の目的をもっと丁寧に説明して欲しい。(各時間) ○学んだ語彙と内容を別に書けるとまとめやすい。(各時間)

8割の生徒が、振り返りシートで力が付くと感じていた。多くの生徒が単元前後の振り返りシートの1回目の記述と比べて2回目の記述の語彙数が増えていたので、これを見比べることで視覚的に成長を実感したのだろう。語彙数以外にも、授業で学習した具体例を用いた説得力のある文章を書いたり、意見や考え方が変わったりするなど授業で学んだことを活かして書くことができていた。

5 まとめ

生徒が自らの成長を実感できることは生徒のモチベーションにつながる。今後も生徒が自己の変容を実感できる教材の更なる工夫と改善に努めていきたい。